



つなぐちゃんベクトル

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会社内誌 臨時増刊 101号 2010.7.16 発行 社会政策研究所

=====

ただ淡々と100号越え。号数が3桁になっても、巷の情報をピックアップし続けます。

少し視野を広げて、消費税増税についての国際通貨基金の要請の記事と、医療分野で進む業務のIT化の最前線の記事を紹介します。【kobi】

IMF、消費税段階引き上げ要請 最大15%を例示

2010年7月15日【ワシントン共同】

国際通貨基金（IMF）は14日、日本経済に関する年次審査報告を正式発表し「周期的な景気回復を利用し、2011年度から財政再建に着手するべきだ」と明記した上で「消費税率の段階的な引き上げ」を要請した。具体的には11年度から徐々に15%まで上げるケースを例示した。

IMFは、欧州の債務危機で先進国でも突出する日本の公的債務残高に注目が集まっていると指摘し「信頼できる財政再建が緊急の課題」と強調。10年間かけて毎年国内総生産（GDP）の1%ずつ、財政赤字を削減することを提言した。

IMFは、菅直人首相が掲げた財政運営戦略を評価。ただ財政再建目標の達成について「歳出削減には限界があり、新たな歳入確保と歳出の伸びの抑制に頼る必要がある」として、増税が不可欠と強調した。

報告は「消費税率を11年度から段階的に15%まで上げればGDPの4~5%の歳入増になる」と説明。同時に所得税控除の見直しや法人税の引き下げを組み合わせる必要性も指摘した。

iPhone 使う在宅医療など地域先駆事例を紹介

2010年07月14日 キャリアブレイン

7月14日に開幕した「国際モダンホスピタルショー2010」（主催＝日本病院会、日本経営協会）で、「先駆的クリニックに学ぶー患者中心の地域医療サービス」と題したスペシャルセッションが行われた。高機能携帯電話「iPhone」を使った在宅医療の支援システムなど、地域医療サービスの先駆的な事例が紹介された。

医療法人社団プラタナス桜新町アーバンクリニック院長の遠矢純一郎氏が「iPhoneを利用した在宅医療の支援システムと地域連携の仕組み作り」と題して講演。写真や動画撮影機能、データ共有といったインターネットサービスなどが使えるiPhoneを活用することで、在宅医療サービスの質が向上するとして、これまでの取り組みを紹介した。

iPhoneを院内のスタッフで活用することにより、「いつでもどこでも必要な情報にアクセスできるようになる」と、スタッフ間で情報共有によるメリットを確認。院外のケアマネジャーなどの医療・介護関係者との連携においては、インターネットや情報機器を利用する習熟度に差があったり、紙ベースで事務処理をしている医療機関があったりすることな

どから、「iPhone 活用は難しい」と不評だったが、こうした問題を解消できれば潜在的な需要は大きく、習熟度や事務処理の電子化などの進展が重要とした。

さらに、7月からグループウェア最大手のサイボウズと組み、インターネット上で医療・介護関連のソフトウェアやデータを共有する「ヘルスケアクラウド」の実験を始めていることを紹介。IT を活用した地域連携による医療サービスの質の向上を目指しているが、セキュリティ面での不安などもあり、「セキュリティは高めるほど利便性は低くなる。サービス品質とのバランスが重要だが、その答えは今のところない」とした。

医療法人社団東京育明会親和クリニック理事の増山厚志氏は「地域密着型の患者サービスで“町の保健室”を目指す！」と題して講演。地域密着型サービスを「『自分のことを分かってくれているという安心感』の提供」と定義して、スタッフ間や患者とのコミュニケーションサイクルを持続させていくことが重要だとした。



医療法人社団つばさ（両国東口クリニック）理事長の大山博司氏は「インターネットと IT を活用した専門特化クリニックの運営」と題して講演。インターネットを通じて情報発信することから始まり、そこから来院した患者に、検査結果のデータをインターネット経由で提供するなどの「インターネット医療」について紹介した。

「国際王ダンホスピタルショー2010」でスペシャルセッション「先駆的クリニックに学ぶ一患者が中心の地域医療サービス」が開催された（7月14日、東京国際展示場）

たまには太陽の子・手をつなく、たまにはつなぐちゃんベクトル、たまにブログたまにはチェック



大阪市天王寺区生玉前町 5-33 社会福祉法人大阪手をつなく育成会 社会政策研究所発行